

地域カフェ 交流生む 1冊

ガイドブック 県内38カ所紹介



ガイドブックを紹介する佐藤
ゆき恵さん＝川崎市中原区

「まちの縁側」「地域の居場所」ともいわれ、誰でも集まって交流できる場として各地で増えている「コミュニティカフェ」。県内の38カ所を紹介したガイドブックができた。こうしたガイドブックは、初めてという。編集に携わった佐藤ゆき恵さん(38)自身も、川崎市中原区でカフェの店長を務めている。

JR武蔵新城駅前にあるNPO法人「ぐらす・カレストランカフェ」メサ・グランド。佐藤さんはここで店長として、食を通じて地域コミュニティづくりをめざしている。

開店して3年目。佐藤さんがスタッフとして参加す

店の名前はスペイン語で「大きなテーブル」の意味。その名の通り、店内には大きなテーブルがあり、落ち着いた雰囲気だ。スタッフやお客さん同士でテーブルを囲み、会話が弾む。佐藤さんは多様な野菜の食べ方を提案している。

「地産地消と食への興味

子育て・介護…気軽に訪ねて

があった。地域の農家と出会えたことが、店を始めたきっかけ。人と人が出会える場、地域の人になくてはならない場をめざしたい」と佐藤さん。毎日のように訪れるという広田ひろみさん(48)は「安心していられる場所。人とのつながりが心地よい」と話す。

ガイドブックは、「ぐらす・かわさき」と公益社団法人・長寿社会文化協会が共同で作った。佐藤さんの店をはじめ、横浜、川崎、鎌倉・三浦、湘南、相模原・県央、小田原・西湘、足柄の地域別に38カ所を紹介。「飲食」「交流」「就労」といった目的別のアイコンもつけた。

子育てや介護などさまざまな課題を解決するための場や、定年後の新たな社会貢献のあり方の一つとしても関心が高まる「コミュニティカフェ」。佐藤さんは「仲間と出会い、交流の輪が広がるかもしれない。自分が住む地域のカフェを見つけたら、気軽に訪ねてみてほしい」と話す。

ガイドブックはA5判でオールカラー60頁。「メサ・グランド」のほか、川崎市内の図書館でも手に入る。無料。問い合わせは、ぐらす・かわさき(044・872・9660)へ。

(阿部俊幸)



コミュニティ
カフェ
ガイドブック



ぐらす・かわさき
コミュニティカフェ
ガイドブック